

自分の命は自分で守る。守った命で他人を守る。

梅屋学区 防災まちづくり Newsletter

梅屋防災まちづくり活動チーム 発行

第2号
2020年12月

防災まちづくり アンケートへ ご協力ありがとうございました

梅屋学区では、昨年度より防災まちづくりの取組を本格的に開始しました。本年 8 月には、学区内の全世帯・事業者を対象に「防災まちづくりアンケート」を実施し、地域の現状や今後の課題を確認しました。コロナ禍のもと、回答に協力くださった皆さま、本当にありがとうございました。次ページ以降に集計結果を掲載していますので、ぜひご覧ください。

梅屋防災まちづくり活動チームでは、この結果をもとに、学区全体のまちづくり計画や具体的な活動内容を考えていきます。引き続き、ご協力をよろしくお願いします。

自主防災会防災部長 によるまちあるき ワークショップを 実施しました

去る 11 月 14 日（土）、梅屋防災まちづくり活動チーム主催による「防災まちあるきワークショップ」を開催しました。京都市まち再生・創造推進室、京都市景観・まちづくりセンター、当事業の支援アドバイザーを含む総勢 32 名が参加しました。

学区を北・中・南の 3 ブロックに分け、参加者はそれぞれ自分の町内を含むブロックをあるきました。その後、まちあるきで「発見」した防災上のさまざまな課題を地図上にまとめました。4 ページに、「発見」された課題の一部を紹介します。



ワークショップ会場のようす

防災まちづくりアンケート 集計結果

《実施概要》

調査期間 2020 年 8 月
調査対象 梅屋学区の全世帯・事業所
配布数 873
回収数 433（回収率約 50%）



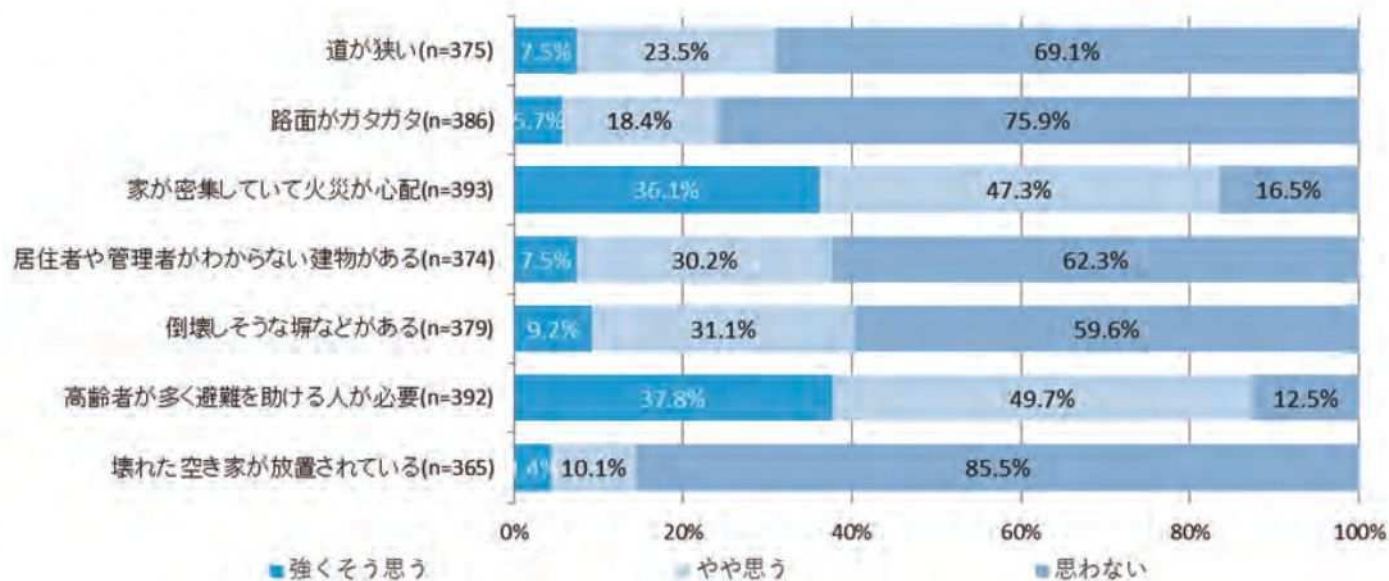
Q. 総合防災訓練に参加したことはありますか

参加経験のある人が
約 7 割を占めました。
「一度も参加していない」
という人は 3 割弱、
「訓練があることを知らない」
という人はわずかでした。



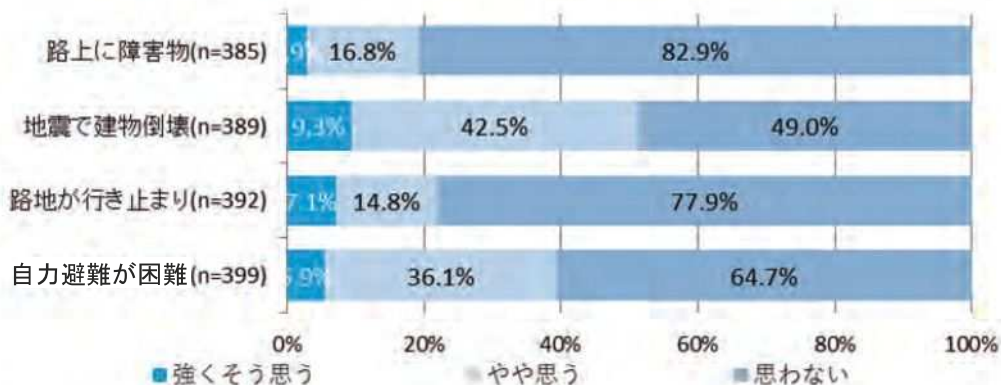
Q. 住まいの周辺について

家が密集していることによる火災の延焼の心配、高齢者が多いため避難の手助けが必要となることの 2 点が際立って高い割合を占めました。どちらも「強くそう思う」人が 4 割近く、「やや思う」を含めると 8 割以上にのぼっています。



Q. 自分や家族の避難について

地震で建物等が倒れて、避難路がふさがれることに不安を持つ人が約半数を占めています。
また、家族の中に自力での避難が難しいと考える人も4割に達しています。



Q. 今後、取り組んでみたいこと（複数回答）

幅広い課題について、取り組んでみたいという意向が示されました。中でも「安否確認」や「防災備蓄」「日赤・京あんしんこども館と連携」への関心が高いとみられます。



自由意見（一部抜粋）

- ご近所の方が色々心配して助けてくださるところ。横の連絡がよくとれている。
- 積極的にイベントや行事をされていて素晴らしいと思います。
- 地域に長く住んでいる人と新しく住み始めた人との交流がある。
- 安心して暮らせるまちです。近くに第2日赤病院があるので安心。
- 温かい良い学区だと思います。突然にやってくる大地震は怖いです。
- 日々より備える努力をします。色々な取り組みをありがとうございます。
- マンションが増えてきて、コミュニケーション不足になっていると思います。
- 細い路地が多く、ブロック塀の倒壊などで避難路がふさがれてしまわないか気になります。



→ 活動チームより 京都市の助成制度があります。詳しくは右上のQRから。

- 梅屋広場に早く防火兼用の井戸の設置を強く希望します。

→ 活動チームより 防火水槽はすでにあり、防災用の井戸を設置しました。

- 避難所の環境や収容人数への不安があります。

→ 活動チームより みんなが避難所に行くということではなく自分なりの避難先を見つけてもらえれば。ご自宅の安全性が確保できれば、自宅避難ができ、地域の防災性も高くなります。もちろん一人で心配な方は避難所に来てください。

防災まちあるき ワークショップ

まちあるき当日のようすを紹介します。
新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、
以下の流れで進行了しました。

みんなで見つけた地域の魅力と課題



①開会のあいさつ（梅屋学区自主防災会・関会長）



②防災まちづくりに関する趣旨説明とアンケート結果報告



③3ブロックに分かれてまちあるき開始！

《まちあるきで発見したこと》

- 行き止まりの路地が多い
- 道がふさがれると逃げ場がない
- まとまった空地がいくつかある
- 駐車場が増えている
- 消火バケツが適切に置かれている
- 路地には住み心地の良さがある
- 行き止まりに避難扉をつけたい
- 町家などの歴史ある建物が多い
- 高齢者等の救助の手助けが必要
- 日頃のコミュニケーションが大切
- 落ちそうな屋根瓦があった
- 消火器の点検が必要 など



⑥閉会のあいさつ（自治連合会・沖野会長）



⑤まとめた内容をブロックごとに発表



④「発見」した課題と魅力を地図上にまとめる

参加者の声

- 普段気づかなかった、ブロック塀、狭いみち、危険な空き家など防災上重要（問題）となるものが多く存在することに驚いた。特に空き家は普段の生活道路からは見えないところが多く、まさに「発見」であった。
- 近所でも知らない細い路地があり驚いた。
- 狭い路地があり、行き止まりになっていて避難しにくいと感じた。
- 路地の奥にいくつか店舗や住居が存在するところは災害時大丈夫なのかと不安になった。

- 改善が必要な事案を今後どのように進めていくのか明らかになるとよいと思う。
- 高齢者の避難が困難な気がします。
- 日頃ゆっくりまちあるきをすることはなく、いい機会になり良かったです。
- 改めて地域の現状を見直してみると、発見がありました。
- 普段意識していないこと、知らなかったことに気づけたのは非常に有意義でした。また、説明や雰囲気も非常によく楽しく参加できたのもよかった。